

2024年11月30日（土）

老球の細道841号

11月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今月は激震が二つ走った。一つは選挙である。その中でも特に米国大統領選挙と兵庫県知事選挙であった。あれほどのインテグリティに反する行為を行っていても支持する人たちがたくさんいる。私は SNS を知らないが、テレビと新聞からだけの情報では判断が間違ってしまうのだろうか。どちらの情報も安易にうのみにしないことを肝に銘じたい。

もう一つは八村塁発言である。パリ五輪で途中リタイアしたことには何か伏線があると予想していたが心配は的中した。この件もネットやその他メディアで色々対立をあおっている。放たれた矢と言葉は元に戻らない。日本バスケット協会、上手に対処してもらいたい。

1・テレビから

◆「往く道は 精進にして 忍びて終わり 悔いなし」〈NHKBS：『没後 10 年高倉健にいたい』〉：健さんが比叡山の僧からいただいた言葉。高校時代、部活後に見ていた映画『唐獅子牡丹』が懐かしい。映画を観た家までの帰り道はいつも健さんの歩き姿になっていた。

◆「本との出会いは壁が高い。一度乗り越えれば宝物が見つかる」〈NHK 朝ニュース〉：読書の秋にちなんだニュースキャスターの言葉。コーチの資質に必要な「自己理解」「他者理解」がある。ある人が言っていた「シェークスピアを読めば人間がすべてわかる」と。

2・読書から

◆「あやつられることのない、自律的な判断を持ち、福祉社会を創り上げるような人間を育成するのは教育である。そして教育の仕事は、公共のなすべき第一の仕事」である〈『豊かさとは何か』暉峻淑子著：岩波新書〉：新たな政府がスタートした。教育にどれだけお金をかけられるのかに注目している。何事も優秀な人材を育成することが国の将来を決める。

◆「暗黒を知らぬ光はないのであり、苦悩を内包しない歓喜はない。そしてその逆もまた言いうる」〈『人類の知的遺産「バルト」』：集英社〉：米国キング牧師も言っている。「暗闇の中でこそ星が見える」。そしてまた喜びも束の間・・・、人生色々♪男も女も色々♪である。

3・新聞から

◆「岩手は高校野球の弱小県だったけど、今の子どもたちは、世界一になることだって想像できないことではなくなっている。想像できることは、実現できる」〈朝日：スポーツ〉：大谷翔平高校時代の対戦高校監督の言葉。『切に思うことは必ず遂ぐるなり。強き敵、深き色、重き宝なれども切に思う心深ければ、必ず方便も出で来る様あるべし』道元の言葉である。

◆「信頼は、地道な積み重ねの中でしか育まれませんから」〈朝日：語る：関口宏〉：キャリアもカリスマ性もないコーチが信頼を得る唯一の方法は、毎日の地道な指導の積み重ね。

◆「私はまだまだ成長できる。自分を奮い立たせるための言葉“今のお前は最終形じゃない”」〈朝日：耕論：若竹千佐子（小説家）〉：私の同年代の芥川賞作家の言葉である。63歳の時に子供の頃に抱いていた作家へのデビューを果たした。今でも毎日賢くなっているという。